一剣千金梅の文春巻の五

第九回

江戸 爲永春水著

げんそう

玄宗皇帝と南久天人なの在しゆるが

やうきひ

楊貴妃 ひびん

美人の故ふ依て

もと

もとづ

基て

ふそん

不遜

ちうくん

忠君

やうきひ

楊貴妃



美人の
後詰と

天子ハ近臣ノ車ノ内ヲ御覧ジ給フニ
ベラベラト書キ付ケタル文ノ大キナ
ルヲ御覧ジ給ヒテ楊氏忠ガ謀反ノ
由ヲ御覧ジ給ヒテ楊氏忠ヲ召シ
テ御覧ジ給フニ楊氏忠ガ謀反ノ
由ヲ書キ付ケタリ天子ハ楊氏忠
ヲ召シテ御覧ジ給フニ楊氏忠ガ謀
反ノ由ヲ書キ付ケタリ天子ハ楊氏
忠ヲ召シテ御覧ジ給フニ楊氏忠ガ
謀反ノ由ヲ書キ付ケタリ天子ハ楊
氏忠ヲ召シテ御覧ジ給フニ楊氏忠
ガ謀反ノ由ヲ書キ付ケタリ天子ハ
楊氏忠ヲ召シテ御覧ジ給フニ楊氏
忠ガ謀反ノ由ヲ書キ付ケタリ天子
ハ楊氏忠ヲ召シテ御覧ジ給フニ楊
氏忠ガ謀反ノ由ヲ書キ付ケタリ天
子ハ楊氏忠ヲ召シテ御覧ジ給フニ
楊氏忠ガ謀反ノ由ヲ書キ付ケタリ
天子ハ楊氏忠ヲ召シテ御覧ジ給フ
ニ楊氏忠ガ謀反ノ由ヲ書キ付ケタ
リ天子ハ楊氏忠ヲ召シテ御覧ジ給
フニ楊氏忠ガ謀反ノ由ヲ書キ付ケ
タリ天子ハ楊氏忠ヲ召シテ御覧ジ
給フニ楊氏忠ガ謀反ノ由ヲ書キ付
ケタリ天子ハ楊氏忠ヲ召シテ御覧
ジ給フニ楊氏忠ガ謀反ノ由ヲ書キ
付ケタリ天子ハ楊氏忠ヲ召シテ御
覧ジ給フニ楊氏忠ガ謀反ノ由ヲ書
キ付ケタリ天子ハ楊氏忠ヲ召シテ
御覧ジ給フニ楊氏忠ガ謀反ノ由ヲ
書キ付ケタリ天子ハ楊氏忠ヲ召シ
テ御覧ジ給フニ楊氏忠ガ謀反ノ由
ヲ書キ付ケタリ天子ハ楊氏忠ヲ召
シテ御覧ジ給フニ楊氏忠ガ謀反ノ
由ヲ書キ付ケタリ天子ハ楊氏忠ヲ
召シテ御覧ジ給フニ楊氏忠ガ謀反
ノ

妃を一妻四妾を置く義也
一妻四妾
唐令、令条人庶婚姻
令条人庶婚姻
こゝに唐土の風俗
唐土の風俗
あの国風にて
国風
皇后の下
皇后
妃の上
妃
夫人
夫人
嬪
嬪
妃
妃
皇后
皇后
皇后



先程あの方へ参りました途中で
お目にかゝりましたが
十五六人に
小用の
あとから
勢ひで
七人
とも
北の
頼んで
腹で
腹切
八兵衛の
産んだ
屋敷

九帝人のあった事を述べ其理由の差別を
春の梢のわれ〳〵言葉も
れの種を含む
ふまで言ふ
ふまで
き
氣だろう
き
氣
他人と彼れ
八へ
貸ろわ
お前の
いるみ
ば發
送
ふ
ふ
ふ

おとゝ　玉　十二条春さり　八妹の妻
子　多　戸　来　ハ妹日吹方ふ
妻　あゞ　来　ヲヤ　服
娘八条春さり　玉　の妹ぞ
と　の　ま
娘のうそ　私の効の七ぶ
あい　ま
思そう　来　とのうそ
ふ分そ　ま
多　ア　サ　来ま　ぶ
ろ　れ
ア　ハ妹　そ
多ヨ宮　ぶ
ま
相談　そ

さのようなる人多く来へ
居る家体なれバ
いかなる
あの娘の真実
ならん
あるゝ人の
左様ニ
ハ
多くハ
ハ
ハ

とりそ来候十きん助へ七きんが連て
そもじ様へ参ると申さん助へ
さら左様ぞ
そもじ様へ参りまするとも今ふ
そもじ様へ参ると申ては
さんお客様が御ざれ雑水用がござる
の西用とこのの八別条ござるまい
三人乙丼一人前
と当座敷して居るのぞ

来へ　ろんの賀も根ぞん
ろそ　ぢき　ろ
欠出し　直ぶ西白も
き
のふのてあこのぐアナ
ろおまこ
ぢう
ぐ人　来　王　ろ晴人が
ぢう
ろ　ま
平実
ろう
ろ　ま
ヨ平　ぢう
ろ
ろ
ろ